

令和5年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

4年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語	<p>○読むことの到達度は85%以上となっている。自分の意見を発表することができる児童とできない児童がいる。</p> <p>○漢字の定着に差がある。 (到達度30%~100%)</p>	<p>○意見交換の場を設定して、一人一人が意見を発表する時間を設定する。場合によっては、席を移動し気兼ねなく話せる友達と意見の交換ができる時間を設定し、考えに自信がもてるようにする。</p> <p>○学習した漢字を日常的に使うよう指導する。学習場面以外で作成する、掲示物にも漢字を使うよう指導する。</p>	
社会	<p>○学習内容の知識としての定着度は高い（到達度85%以上）。だが、思考力や表現力を働かせる場面での活用力に差がある（到達度50%~100%）。特に、資料の読み取りに課題が見られる。</p>	<p>○グラフや写真などの資料の見方について、「どの資料から、どんなことが言えるのか。」を考える機会を増やす。資料を理解して必要な情報を整理することに慣れるようにしていく。</p> <p>○自分たちの生活との関連付けを意識し、関わる人々の思いを想像したり、自分たちにできることは何かを考えたりする。</p>	
算数	<p>○知識・技能の到達率(A評価が約80%)と思考・判断・表現の到達(A評価が約80%)共に高い水準である一方、文章問題に苦手意識をもっている児童が見られる。</p>	<p>○「なぜ、その計算になるのか。」「どうしてそのやり方で求められるのか。」を問い、学習内容を知識として定着させるだけでなく、既習の学習と結び付けて考えたり説明したりできるように日々の授業で習慣化していく。</p> <p>○文章問題では、問題文から重要な情報を見つけて整理させ、立式の根拠をもてるよう指導する。</p>	

理科	<p>○観察・実験に取り組む意欲は高く、到達度が90%以上となっている。ただし、事象からの問題を見出したたり、根拠のある予想や仮説を立てたりする力が弱い傾向にある。</p>	<p>○問題について、既習事項や生活の中の体験などを思い出し、科学的に根拠をもって予想や仮説を考えられるように助言する。</p> <p>○問題の見出し方について、「なぜそうなるか」ではなく、「こうしたらどうなるだろうか」のように、抽象的ではなく具体的な問題を見出すことができるよう助言をしていく。</p>	
体育	<p>○授業に臨む意欲に大きな違いがある。意欲的な児童が大半を占める一方、意欲的でない児童も数名いる。</p>	<p>○自分の課題を明確に把握し、運動の面白さや達成感を味わい、楽しみながら運動に取り組めるように、習熟度別に場を設定したり、スモールステップでそれぞれの達成感を味わったりできるよう指導していく。</p>	
学 習 の 時 間 総 合 的 な	<p>○意欲的に活動できるが、まとめることや自分の意見をもつことに課題が見られる。</p> <p>○パソコンの操作速度に個人差がある。</p>	<p>○国語等の既習事項を確認したり、見本を提示したりするなどしてまとめる方法を知らせる。また、友達と交流する場を取り入れることで、友達のまとめ方や考え方を参考にさせる。</p> <p>○調べ学習で検索エンジンを使って調べる機会を増やす。パワーポイント等の使用方法をICT支援員の協力を得て丁寧に指導していく。</p>	